

十勝地方南部・豊頃丘陵の維管束植物相（予報）

Flora of Toyokoro Hill of southern Tokachi, Hokkaido

丹羽 真一^{※1}・川辺 百樹^{※2}・松田まゆみ^{※3}・佐藤 謙^{※4}

Shin-ichi NIWA, Momoki KAWABE, Mayumi MATSUDA and Ken SATO

Abstract — Flora was researched at Toyokoro Hill of southern Tokachi, Hokkaido, where located from 40 to 200-m a.s.l. in elevation. The vegetation is consisted mainly of semi-natural deciduous broad-leaved forests and man-made coniferous forests, added to rich-herb communities on small rocky-cliff and wasteland around farms. Distribution of two remarkable species, *Astragalus membranaceus* Bunge var. *membranaceus* and *Epilobium fastigiato-ramosum* Nakai were reported in this area by Yokoyama (1951). *A. membranaceus* var. *membranaceus* was found after 51 years since Yokoyama (1951). However, *E. fastigiato-ramosum* was not found. We enumerated 357 plant species, and sum of total number adding Yokoyama's list was 432 species. Of them, 26 endangered plants were included, which were designated in the Japanese RDB or Hokkaido RDB, e.g. *Asarum sieboldii* subsp. *heterotropoides*, *Pseudostellaria sylvatica* and *Paenoia japonica*.

はじめに

良好な自然環境を効果的に保全するためには、地域ごとに保全計画が策定される必要がある。そのためには、市町村単位かさらに細かい地区単位（または2次メッシュ）で自然の諸要素が把握されなければならない。国あるいは都道府県ごとの植物相については全体的な把握が進み、特に稀少植物に関しては近年になってレッドデータブックが相次いで作成されている（植物地理・分類学会 2002）。北海道でも、伊藤ほか（1985；1987；1990；1994）による「北海道高等植物目録（I～IV）」のほか、北海道（2001）による「北海道の稀少野生生物・北海道レッドデータブック 2001」（以下では道 RDB）が刊行されている。しかし、北海道の植物相に関する市町村以下の単位の植物相については、地域によって情報収集量に大きな偏りがあり、不十分な地域も少なくない。今後、こうした「情報過疎地域」を如何に無くしていくかが、きめ細かい保全策を実行する上で大きな課題となる。

十勝地方のフロラについては、横山（1951）の「十勝植物誌」により、合計 112 科 937 種が報告されている。本著は、著者自身による調査結果だけではなく、当時の北海道大学農学部植物標本庫に所蔵されていた日高山脈や大雪山などの標本データをまとめており、当時の植物誌としては非常に充実した内容となっている。しかし、その後 50 年余りが経過して、現在の植物分類学的体系に合わない部分が生じ、再検討・改訂が必要になっている。また、全域的に自然環境の改変が著しく進んだことから、現在でも分布・生育しているかどうかの再確認が必要になっている。その後、北海道各地でさまざまな植物相調査が行なわれているが、十勝地方では上士幌町（滝田ほか 1996；丹羽ほか 2000）を例外として、市町村単位の植物誌が編纂されないままに経過してきた。近年、十勝地方では、高山帯の植物相が比較的良好に把握されているものの、低地の植物相の情報収集・整理が不十分であると言える。

豊頃丘陵は、北海道十勝地方の南部に位置する小規模な丘陵地である。横山（1951）は、豊頃丘陵

※1 さっぽろ自然調査館、※2 上士幌町ひがし大雪博物館
 ※3 上士幌町糠平、※4 北海学園大学

を「十勝植物誌」をまとめる際の重点調査地の一つにしたと思われる、そこから198種の分布を報告している。その中には、いくつかの特筆すべき種が含まれている。その一つ、エダウチアカバナは「我が国における保護上重要な植物種の現状」（我が国における保護上重要な植物種及び群落に関する研究委員会植物種分科会編1989）と道RDBにおいて、「絶滅種」と判断された種である。一方、環境庁（2000）の「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物」（以下、環境庁RDB）では、同種は「絶滅危惧ⅠA類」（ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い）とされており、現状把握が急務となっている。また、一般には高山や高標高の石灰岩地に生育する稀少種のキバナオウギ（タイツリオウギ）が、本地域に隔離的分布することが報告されている。このほか、道東地方では稀なアカシデ・コナラ・ヤマツツジなど温帯要素の植物の記録もあり、これらにとって豊頃丘陵は国内分布の東限または隔離分布地になっている。

しかし、豊頃丘陵のフロラはその後報告されておらず、その現状は上記の特筆すべき植物を含めて不明となっていた。そこで、川辺がキバナオウギの現状調査を企画し、これに以前からエダウチアカバナの確認調査を希望していた佐藤が同調する形で、2002年8月1日、川辺・松田・佐藤の3人によって調査を行なった。また、北海道環境生活部自然環境課によるエダウチアカバナの現状調査として、同年8月29日、丹羽と佐藤が改めて豊頃丘陵を踏査した。これら2回にわたる調査では、稀少種の現状調査だけでなくフロラの把握にも努めたので、ここにそれらの結果を予報として報告する次第である。

北海道十勝森づくりセンター（旧浦幌道有林管理センター）管理課の各位には、入林許可に便宜を図っていただいた。帯広百年記念館の池田亨嘉学芸員には研究報告への掲載でお世話をいただいた。さっぽろ自然調査館の渡辺修、渡辺展之の両氏には、表作成への助力と有益なコメントをいただいた。以上の方々には心からの謝意を表する。

調査地と調査方法

1. 調査地概況

豊頃丘陵は北海道十勝地方の南部に位置し、十勝川を東縁、糠内川を西縁、当縁川本流を南縁、農野牛川を北縁として、北西側には幕別台地、さらに十勝川を挟んで北側には居辺台地が連続する。最高標高は336m、平均標高約200mの開析が進んだ丘陵地で、標高300m付近に顕著な平坦面がある（根本ほか1933；今井1962を参照）。この丘陵は豊頃ドームともいわれ、ジュラ紀後期から白亜紀前期のチャート・石灰岩・砂質泥岩・超塩基性の海底火山噴出物からなる。また本地域は更新世前期に隆起して陸化し、その後海に没することはなかった（山口・佐藤1989）。また、河川の浸食作用によって河岸段丘・段丘斜面・堆積地のほか、断崖など比較的急峻な地形が形成されている。

豊頃丘陵のほぼ中央を十勝川水系の牛朱別川が横断し、その本流は大川、支流は小川と呼ばれている。大川と小川はそれぞれ延長約12kmと約11km、両者を併せた範囲は北緯42°39′~44′ 東経143°20′~25′に及ぶ。調査では、この大川と小川の合流点（標高約40m）からそれぞれの上流の標高約200mに至る流域を対象にした。

豊頃丘陵の植生は、ミズナラ・イタヤカエデ・シナノキなどを主体とする冷温帯性落葉広葉樹林が卓越するが、尾根部にはトドマツの混生する針広混交林がみられる。本地域には自然保護区の指定が一切なく、これまで道有林・民有林として施業対象地となってきた。このため、全般に伐採の影響が残る二次林やトドマツ・カラマツなどの針葉樹人工林に替えられ、この地域の原植生をとどめている場所は少ない。

2. 調査方法

現地調査は、2002年8月1日および同年8月29日に行なった。1回目の調査では、林道沿いに踏査しながら出現種を記録し、特に林道に面した露岩地と石灰岩地では詳細な観察を行なった。2回目の調査では、小川の最上流部（標高約200m）から標高約50mにかけて河道内を徒歩で踏査しながら出現植物の種名を記録した。その際、川幅が10mを超える中流以下では、二人の調査者が左右の河岸を分担して観察を行なった。また大川では、林道沿いに踏査しながら、いくつかの地点（河岸や露岩地を中心に）で出現種の記録を行なった。いずれの調査においても、植栽か自生かの確認を行なった。

今回の調査では、採集許可を得ていなかったため証拠標本の採集はせず、種名の記録にとどめた。したがって、植物目録の作成は、筆者らの記録のうち確実に判断される出現種に基づいた。学名と和名は、基本的には佐竹ほか（1981, 1982 a, 1982 b, 1989 a, 1989 b）・岩槻（1992）に従った。稀少種の判定については、環境庁RDB, 道RDB, 環境庁（1976）の自然環境基礎調査選定種に基づいて行なった。さらに、結果となる植物目録は、「十勝植物誌」（横山1951）に「豊頃小川」、「豊頃大川」、「豊頃」、「豊頃茂岩」と産地が明記された種を横山の報告種として、今回の調査結果に加えて整理した。整理にあたっては、同種異名と思われる種は種名の統一を行なった（例えばウチワマンネンスギとマンネンスギなど）。

3. 稀少種エダウチアカバナとキバナオウギについて

今回の調査の契機となったエダウチアカバナおよびキバナオウギについて、分布・形態・生態的な特徴についてそれぞれ解説する。

(1) エダウチアカバナ *Epilobium fastigiato-ramosum* Nakai (アカバナ科アカバナ属)

本種は、日本・朝鮮・中国東北部・ロシア極東（ウスリー・アムール・ダフリア）に分布し、国内では北海道に稀に産する多年草である（大井1975）。その形態はホソバアカバナに似ており、柱頭は棍棒状、葉には鋸歯がなく全縁、茎に稜線がないなどの共通点を持つが、茎が多く枝を分けること、葉の幅が広いこと、花が小さいことなどによって区分される（北川1982）。北海道における産地は、伊藤・日野間・中井（1994）によると、胆振・十勝の両支庁が挙げられているが、いずれも「絶滅？」と記述されている。著者の一人、佐藤は、これまでに報告のあった胆振・日高・十勝の5ヶ所の産地を概観したところ、1ヶ所を除いて350m以下の低標高地に分布することが分かっている。そのうち1980年以降に確認された唯一の産地である胆振における観察によると、その生育地は、中下流域の砂や小礫が堆積した中州や河岸であり（同一河川でも礫径が大きな岩礫や玉石が堆積した上流域の河原では確認されなかった）、比較的明るい環境であった（佐藤1997）。本種は経済活動の行なわれやすい中下流域に生育が限られるため、さまざまな人為攪乱にさらされてきたと考えられる。

(2) キバナオウギ *Astragalus membranaceus* Bunge var. *membranaceus* (マメ科ゲンゲ属)

本種はタイツリオウギの基本変種で、日本・朝鮮・中国東北部・モンゴル・中央アジア・シベリア・ウスリー・アムールに分布し、国内では岩手県と北海道に産する（清水1982；大橋1982）。北海道における産地としては後志地方の大平山と豊頃丘陵が知られている。大平山では、石灰岩岩壁の下方に隣接し、砂岩・チャートの小礫と石灰岩岩礫の混じる崩壊地・雪崩地に生育する。本種の形態は、小葉が17～21枚、花は総状花序につき、黄白色で長さ約20mm、萼裂片は三角形で短い（萼筒の1/2以下）という特徴がある（清水1982；大橋1982）。本種（種内変異タイツリオウギを含め）は分布が局所的であることに加えて、各産地とも個体数が少なく、絶滅の可能性の高い種である。

結 果

1. 稀少種エダウチアカバナとキバナオウギについて

(1) エダウチアカバナ

今回の調査では、本種を確認することはできなかった。以下に、調査した河川の現況を記述する。小川の最上流域では、河川改修は認められないが、川幅が狭いうえに河道が深く削りこまれているため砂礫質の河原はほとんど形成されないこと、兩岸から張り出した樹冠によって河床面がかなり暗いことから、本種の生育地環境として良好ではないと考えられた。上・中流域では川幅が広がり、所々にやや日当たりのよい砂礫質の河原が現れたが、こうした場所にはアキタブキ、オオヨモギなどの高茎草本が密生するが多かった。また、中流域では農地からの土砂の流入が認められたほか、かなり古い時代に造られた低水敷護岸があるなど、人為的な影響が強く認められた。下流域では完全に三面張りに護岸されており、河原が出現する余地はほとんど認められなかった。一方、大川の上流域では、小規模な砂礫質河原が所々に出現したが、最近（1年内外）の出水によって生じたと思われる新しいものが多かった。中流域では砂質河原が見られたが、全般に高茎草本の繁茂が著しく、農地からの土砂の流入もかなり認められた。下流域は三面張りに護岸され、排水路状になっており、本種の生育できる可能性は低いと考えられた。

(2) キバナオウギ

今回の調査によって、調査範囲の1ヶ所でキバナオウギの生育を確認した。生育地の詳細については盗掘防止のため明らかにしないが、著者の一人、川辺（2002）が「ひがし大雪だより」に写真を紹介している。生育地では3つのパッチに分かれており、それぞれの面積と株数は20 m×20 m・10株（繁殖株は2株）、3 m×5 m・10株（繁殖株はなし）、4 m×2 m・12株（繁殖株は1株）であった。この生育地は、南西向きの急斜面（傾斜角46度）にあり、ミズナラやサワシバなどの小径木が林冠を形成する疎林で、林床にはイワヨモギ・イヌヨモギ・ホソバヒカゲスゲ・エゾヤマハギなどが混生していた。

2. 植 物 相

2回の調査によって、小川地区で305種（4亜種・1変種を含む）、大川地区で196種（2亜種・1変種を含む）、合わせて357種の植物を確認した（付表）。ただし、これ以外にもドジョウツナギ属の1種・シュスラン属の1種（ツリシュスランと思われる）・アゼスゲと思われる種を小川地区で確認している。今回確認された種のうち、カラマツとトドマツの2種は植栽されているが、トドマツは尾根筋に自生も確認されている。ナガハグサ、シロツメクサなどの帰化種（逸出種含む）は、小川地区で23種、大川地区で13種、全体で27種だった。横山（1951）の記録と合わせた豊頃丘陵全体の種類数は、432種（421種・2亜種・8変種・1品種）となった。

横山（1951）が報告した温帯要素のコナラ・アカシデ・ヤマツツジ・ミヤマハコベは、今回の調査ではいずれも確認できなかった。しかし、オオメシダ・ナライシダ・ジュウモンジシダ・ツタウルシ・エゾアジサイ・マタタビなど、北海道では日本海側に多く十勝地方では珍しい植物が確認された。

今回確認された種のうち、環境庁RDBと道RDBに掲載されている稀少種は以下の通りである。タチイチゴツナギ（環EN；ただし北海道のものは帰化と考えられている）、アカンカサスゲ（道R）、ウスイロスゲ（環VU）、オクエゾサイシン（道R）、ノダイオウ（環VU）、クシロワチガイソウ（道Vu・環VU）、ヤマシャクヤク（道R・環VU）、チャボカラマツ（環VU）、チドリケマン（環NT）、トカチスグリ（環EN）、カラフトイバラ（道R）、エゾシモツケ（環EN）、ホザキシモツケ

(環 VU), キバナオウギ (道 R), クロビイタヤ (環 EN), ヤマタニタデ (環 VU), エゾムラサキツツジ (環 VU), クリンソウ (道 Vu), ネムロブシダマ (環 VU), イワヨモギ (環 VU) の 20 種である。また、今回確認できなかったが横山 (1951) が報告している種に、イトモ (環 VU; 「豊頃」), オオバタチツボスミレ (環 VU), エダウチアカバナ (道 Ex・環 CR), クロミサンザシ (道 Cr・環 CR), カイジンドウ (環 EN; 「豊頃」), エゾノキヌタソウ (環 VU; 「豊頃」) の 6 種がある。さらにこれら以外にも、ヒメスギラン・ナガバツメクサ・エゾオオヤマハコベ・エゾノレイジンソウ・アカミノルイヨウショウマ・エゾスグリ・ヤマハナソウ・エゾノカワジシャ・ミヤマキヌタソウ・エゾムカシヨモギ・ムカシヨモギの 11 種は、緑の国勢調査選定種である。これらを合計すると 37 種となる。

考 察

1. エダウチアカバナとキバナオウギについて

横山 (1951) の「十勝植物誌」によると、エダウチアカバナは小川地区で確認されている。しかし、今回は最上流部から下流部まで踏査したにもかかわらず確認できなかった。小川の流路幅は狭くて見落としにくいこと、河道から離れた場所に生育するとは考えられないことから、小川地区における本種の生育の可能性は低いといわざるをえない。小川地区では、本来の生育地があると考えられる中下流域で行なわれてきた河川改修が原因で、本種が絶滅した可能性は高い。このような護岸工事が脅威となっているのは、道内の他の生育地においても同様である (佐藤 1997)。道内におけるエダウチアカバナの分布地は、不確かな生育情報も含めて低標高地の数ヶ所にのぼるが、他の場所でも極めて絶滅に近い状況にあると思われるので、早急に綿密な調査が必要である。実際、2002 年には他に 2ヶ所の生育地を調査しているが、いずれの場所でも確認することができなかった (佐藤, 未発表)。

一方、キバナオウギは調査地の 1ヶ所で確認することができた。本種は典型的な隔離分布種であり、種の保全を考える上でも、植物地理学的な研究をする上でも今回の再確認は重要である。ただし、生育地の面積は全体で 400 m² 余り、生育株数は 34 株 (そのうち開花株は 3 株) に過ぎなかった。確認した周辺に別の小集団が点在する可能性もあるが、広大な亜高山草原を有する大平山などのように、大規模な集団が存在することは期待できないので、盗掘等の脅威に対する保護策を慎重に検討しなければならない。

2. 植 物 相

調査地の植生は、主にミズナラなどを優占種とする森林植生、川沿いの湿地植生、林道や農地周辺の荒地植生、露岩地の岩壁植生から構成されている。このような多様な植生を反映して、生育環境の選好性の異なるさまざまな植物群が見られ、全体の種数も過去の記録を合わせると 432 種と多くなった。また、イワデンダ・ツルデンダ・フクロシダなど、岩上を主な生育環境とする植物が多いことも本地域の植物相の特色である。

横山 (1951) が報告したコナラ・アカシデ・ヤマツツジ・ミヤマハコベは、今回の調査ではいずれも確認できなかったが、このような明らかな温帯要素が日高山脈以東の本地域にかたまって分布することは特筆すべきである。北海道における温帯要素の分布 (渡邊・大木 1960) については、温量指数や積雪量など気候条件による説明が多く試みられてきたが、本地域のような寡雪寒冷地のケースではこのような条件だけで説明することは難しい。本地域は古い地質年代 (ジュラ紀後期から白亜紀前期) の岩石や地層が露頭し、しかも前期更新世以降、一度も海底に没することなく陸域であった (山口・佐藤 1989)。これらの分布を理解する上で地質学的 (地史的) な要因についても考慮すべきであ

ることを示唆している。

道 RDB および環境庁 RDB に該当する稀少種は 26 種、自然環境基礎調査の選定種を加えると 37 種にものぼった。稀少種が多く生育する高山帯・湿原などの環境を含まない本地域で、このように多いことも、特筆すべきこととして挙げておきたい。

3. 今後の調査について

今回の調査ではエダウチアカバナを確認できなかった。ただし、大川地区については流路沿いを完全に踏査したわけではないので、これを行なった上で本地域におけるエダウチアカバナの生育状況（絶滅の可能性）を判断したい。キバナオウギについては、周辺に別の生育地がないかさらに調べる必要がある。また、コナラ・アカシデ・ヤマツツジなどについても確認したいところである。

今回は標本採取許可がなかったため、記録しても不確実な植物については植物目録に掲載しなかった。今後の調査では、採取許可を得て証拠標本に基づく植物目録の作成を行ないたいと考えている。また、春季植物相に関して調査していないので、これについても今後の課題とする。

4. 植物保護策に関する提言

本地域は、キバナオウギなど絶滅の危惧される稀少な植物が数多く分布するのに加えて、温帯要素の集团的隔離分布地であるなど、植物地理学的にも興味深い地域であるにもかかわらず、何ら特別な保護区の指定がない。地域的に絶滅した可能性があるエダウチアカバナの例を見ても分かるように、本地域では十分な保全策をとらないまま開発行為を進めたために、貴重な自然環境を傷つけてしまっている。本地域のかなりの面積が道有林となっていることから、管轄する北海道に対して次のような提言をしたい。究極的には、法的規制力の強い何らかの保護地域指定をすべきである。例えば、種別に採取禁止指定のできる野生動植物保護地区などの指定が考えられる。一方では、現場レベルでの実効ある保護対策として、稀少種の生育地では植林・伐採事業を中止すること、一般の入林制限やその周辺林道の閉鎖することなども重要と考えられる。加えて、これらの保護策を有効に実施するためにも、網羅的な植物目録の作成、稀少種ごとの生育量把握や分布図作成などの基礎調査を早急を実施する必要がある。

引用文献

- 北海道環境生活部環境室自然環境課（編），2001．北海道の稀少野生生物・北海道レッドデータブック 2001．309 pp．札幌．
- 今井敏信，1964．十勝平野の地形発達史．東北地理，16（1）．仙台．
- 伊藤浩司・日野間彰・たくぎん総合研究所，1985．環境調査・アセスメントのための北海道高等植物目録Ⅰ，シダ植物・裸子植物，73 pp．たくぎん総合研究所．札幌．
- 伊藤浩司・日野間彰・中井秀樹，1987．環境調査・アセスメントのための北海道高等植物目録Ⅳ，480 pp．たくぎん総合研究所．札幌．
- 伊藤浩司・日野間彰・中井秀樹，1990．環境調査・アセスメントのための北海道高等植物目録Ⅱ，単子葉植物，288 pp．たくぎん総合研究所．札幌．
- 伊藤浩司・日野間彰・中井秀樹，1994．環境調査・アセスメントのための北海道高等植物目録Ⅲ，離弁花植物，たくぎん総合研究所．札幌．
- 岩槻邦男（編），1992．日本の野生植物 シダ，311 pp．平凡社．東京．

- 環境庁, 1976. 自然環境保全調査報告書.
- 環境庁自然保護局野生生物課 (編), 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物植物 I (維管束植物). 662 pp. 自然環境研究センター, 東京.
- 川辺百樹, 2002. 十勝のタイツリオウギ. ひがし大雪だより, 39:1. 上士幌町ひがし大雪博物館.
- 北川政夫, 1982. アカバナ科. 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫 (編), 日本の野生植物・草本 II (離弁花類). pp 264-269. 平凡社, 東京.
- 根本忠寛・大石三郎・渡辺武男, 1933. 帯広図幅説明書. 北海道地質調査会報告, No. 2. 札幌.
- 丹羽真一・渡辺 修・川辺百樹・辻本涼子, 2000. 上士幌町維管束植物目録補遺. 上士幌町ひがし大雪博物館研究報告, 22:69-71.
- 大井次三郎, 1975. 改訂増補新版日本植物誌・顕花編, 952-956. 至文堂, 東京.
- 大橋広好, 1982. マメ科. 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫 (編), 日本の野生植物・草本 II (離弁花類), 186-212. 平凡社, 東京.
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫 (編), 1981. 日本の野生植物 草本 III 合弁花類. 259 pp. 平凡社, 東京.
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫 (編), 1982 a. 日本の野生植物 草本 I 単子葉類. 305 pp. 平凡社, 東京.
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫 (編), 1982 b. 日本の野生植物 草本 II 離弁花類. 318 pp. 平凡社, 東京.
- 佐竹義輔・原 寛・亘理俊次・富成忠夫 (編), 1989 a. 日本の野生植物 木本 I. 321 pp. 平凡社, 東京.
- 佐竹義輔・原 寛・亘理俊次・富成忠夫 (編), 1989 b. 日本の野生植物 木本 II. 305 pp. 平凡社, 東京.
- 佐藤 謙, 1997. エダウチアカバナについて. 北海道絶滅危惧植物の現状 2, 57-59. 北海道絶滅危惧植物調査研究グループ. 札幌.
- 清水建美, 1982. 原色新日本高山植物図鑑 (I). 331 pp. 保育社, 大阪.
- 植物地理・分類学会 (編), 2002. 各都道府県別の植物自然史研究の現状. 植物地理・分類研究 50:143-262, 富山.
- 滝田謙譲・川辺百樹・辻本涼子・牧田英男・丸山まさみ, 1996. 上士幌町維管束植物目録. 上士幌町ひがし大雪博物館研究報告, 18:1-59.
- 我が国における保護上重要な植物種及び群落に関する研究委員会植物種分科会 (編), 1989. 我が国における保護上重要な植物種の現状. 320 pp. 日本自然保護協会.
- 渡邊定元・大木正夫, 1960. 東北海道における温帯要素について. 北陸の植物, 8:97-101.
- 山口昇一・佐藤博之, 1989. 糠内地域の地質. 地域地質研究報告 (5万分の1地質図幅), 地質調査所, 78 pp.

附表. 豊頃丘陵の植物相

Appendix. Flora of Toyokoro Hill

科名	No.	学名	和名	帰化	RDB	小川 2002	大川 2002	小川 横山	大川 横山	横山備考
ヒカゲノカズラ科	1	<i>Lycopodium chinense</i> Christ	ヒメスギラン		緑	●				
	2	<i>Lycopodium obscurum</i> L. f. <i>obscurum</i>	ウチワマンネンスギ					●		
	3	<i>Lycopodium serratum</i> Thunb. f. <i>serratum</i>	ホソバトウゲシバ					●		
トクサ科	4	<i>Equisetum arvense</i> L.	スギナ			●				
	5	<i>Equisetum hyemale</i> L.	トクサ			●	●		●	
ハナヤスリ科	6	<i>Botrychium multifidum</i> (Gmel.) Rupr. var. <i>robustum</i> (Rupr. ex Milde) C. Chr.	エゾフユノハナワラビ			●				
ゼンマイ科	7	<i>Osmunda cinnamomea</i> L.	ヤマドリゼンマイ			●				●豊頃
ホウライシダ科	8	<i>Adiantum pedatum</i> L.	クジャクシダ			●	●	●		
	9	<i>Coniogramme intermedia</i> Hieron.	イワガネゼンマイ			●		●		
コバノイシカグマ科	10	<i>Dennstaedtia wilfordii</i> (Moore) Christ	オウレンシダ			●	●	●		
	11	<i>Pteridium aquilinum</i> (L.) Kuhn var. <i>latiusculum</i> (Desv.) Underw. ex Hell.	ワラビ				●			
イワデンダ科	12	<i>Athyrium brevifrons</i> Nakai ex Kitagawa	エゾメシダ			●	●	●		メシダ
	13	<i>Debaria pterorachis</i> (Christ) M. Kato	オオメシダ			●		●		
	14	<i>Debaria pycnosora</i> (Christ) M. Kato	ミヤマシケシダ			●		●		
	15	<i>Athyrium vidalii</i> (Fr. et Sav.) Nakai	ヤマイヌワラビ							●豊頃茂岩
	16	<i>Athyrium yokoscense</i> (Fr. et Sav.) Christ	ヘビノネゴザ				●			
	17	<i>Cornopteris crenulatoserrulata</i> (Makino) Nakai	イッポンワラビ					●		オオミヤマイヌワラビ
オシダ科	18	<i>Dryopteris amurensis</i> (Milde) Christ	オクヤマシダ					●		
	19	<i>Dryopteris expansa</i> (Fr.) Fr.-Jenkins et Jermy	シラネワラビ			●		●		
	20	<i>Dryopteris crassirhizoma</i> Nakai	オシダ			●	●	●		
	21	<i>Dryopteris monticola</i> (Makino) C. Chr.	ミヤマベニシダ			●				
	22	<i>Thelypteris palustris</i> (Salisb.) Schott	ヒメシダ				●			
	23	<i>Matteuccia struthiopteris</i> (L.) Todaro	クサソテツ			●	●			
	24	<i>Onoclea orientalis</i> (Hook.) Hook.	イヌガンソク			●				
	25	<i>Onoclea sensibilis</i> L. var. <i>interrupta</i> Maxim.	コウヤワラビ				●			
	26	<i>Thelypteris phegopteris</i> (L.) Slosson ex Rydb.	ミヤマワラビ			●		●		
	27	<i>Arachniodes borealis</i> Serizawa	ナライシダ				●	●		
	28	<i>Polystichum braunii</i> (Spenn.) Fee.	ホソイノデ			●		●		
	29	<i>Polystichum craspedosorum</i> (Maxim.) Diels	ツルデンダ			●	●	●		
	30	<i>Polystichum retro-paleaceum</i> (Kodama) Tagawa	サカゲイノデ			●				
イワデンダ科	31	<i>Polystichum tripterum</i> (Kunze) Presl	ジュウモンジシダ			●				
	32	<i>Woodsia manchuriensis</i> Hook.	フクロシダ			●		●		
チャセンシダ科	33	<i>Woodsia polystichoides</i> Eaton	イワデンダ			●	●	●		
	34	<i>Asplenium incisum</i> Thunb.	トラノオシダ					●		
ウラボシ科	35	<i>Asplenium ruprechtii</i> Kurata	クモノスシダ						●	
	36	<i>Lepisorus ussuriensis</i> (Regel et Maack) Ching var. <i>distans</i> (Makino) Tagawa	ミヤマノキシノブ			●		●		
マツ科	37	<i>Polypodium fauriei</i> Christ	オシャグジデンダ			●				
	38	<i>Pyrrosia hastata</i> (Thunb. ex Houtt.) Ching	イワオモダカ			●	●	●		
マツ科	39	<i>Abies sachalinensis</i> (Fr. Schm.) Masters	トドマツ			●	●			
	40	<i>Larix kaempferi</i> (Lamb.) Carriere	カラマツ	E		●	●			
	41	<i>Picea glehnii</i> (Fr. Schm.) Masters	アカエゾマツ				●			

科名	No.	学名	和名	帰化	RDB	小川 2002	大川 2002	小川 横山	大川 横山	横山備考
イチイ科	42	<i>Taxus cuspidata</i> Sieb. et Zucc.	イチイ			●		●		
センリョウ科	43	<i>Chloranthus serratus</i> (Thunb.) Roem. et Schult.	フタリシズカ				●	●		
ヤナギ科	44	<i>Populus maximowiczii</i> A.Henry	ドロノキ			●	●			
	45	<i>Populus sieboldii</i> Miq.	ヤマナラシ					●		
	46	<i>Salix gracilistyla</i> Miq.	ネコヤナギ			●	●	●		
	47	<i>Salix hultenii</i> Floderus	エゾノバッコヤナギ			●	●	●		
	48	<i>Salix integra</i> Thunb.	イヌコリヤナギ			●	●			
	49	<i>Salix koriyanagi</i> Kimura	コリヤナギ	E				●		栽培品より逸出
	50	<i>Salix pet-susu</i> Kimura	エゾノキヌヤナギ			●	●	●		
	51	<i>Salix sachalinensis</i> Fr.Schm.	オノエヤナギ			●	●	●		
	52	<i>Salix subfragilis</i> Andersson	タチヤナギ					●		
クルミ科	53	<i>Juglans mandshurica</i> Maxim. var. <i>sachalinensis</i> (Miyabe et Kudo) Kitamura	オニグルミ			●		●		
	54	<i>Alnus maximowiczii</i> Call.	ミヤマハンノキ			●				
カバノキ科	55	<i>Alnus hirsuta</i> Turcz.	ケヤマハンノキ			●	●	●		
	56	<i>Alnus japonica</i> (Thunb.) Steud.	ハンノキ					●		ヤチハンノキ
	57	<i>Betula maximowicziana</i> Regel	ウダイカンバ			●	●			
	58	<i>Betula platyphylla</i> Sukatchev var. <i>japonica</i> (Miq.) Hara	シラカンバ			●	●	●		
	59	<i>Carpinus cordata</i> Bl.	サワシバ			●	●	●		
	60	<i>Carpinus laxiflora</i> (Sieb. et Zucc.) Bl.	アカシデ					●		
	61	<i>Ostrya japonica</i> Sargent	アサダ					●		
ブナ科	62	<i>Quercus dentata</i> Thunb. ex Murray	カシワ				●	●		
	63	<i>Quercus mongolica</i> Fischer ex Ledeb. <i>Quercus mongolica</i> Fischer var. <i>crispula</i> (Bl.) Ohashi	モンゴリナラ ミズナラ			●	●	●		
	64	<i>Quercus serrata</i> Thunb. ex Murray	コナラ					●		
	65	<i>Ulmus davidiana</i> Planch. var. <i>japonica</i> (Rehder) Nakai <i>Ulmus davidiana</i> Planch. var. <i>japonica</i> (Rehder) Nakai f. <i>suberosa</i> Nakai.	ハルニレ コブニレ			●	●	●		
66	<i>Ulmus laciniata</i> (Trautv.) Mayr	オヒョウ			●		●			
クワ科	67	<i>Humulus japonicus</i> Sieb. et Zucc.	カナムグラ			●				
	68	<i>Humulus lupulus</i> L. var. <i>cordifolius</i> (Miq.) Maxim.	カラハナソウ			●	●	●		
	69	<i>Morus australis</i> Poir.	ヤマグワ			●		●		
イラクサ科	70	<i>Boehmeria tricuspis</i> (Hance) Makino <i>Boehmeria tricuspis</i> (Hance) Makino var. <i>unicuspis</i> Makino	アカソ クサコアカソ			●	●	●		
	71	<i>Laportea bulbifera</i> (Sieb. et Zucc.) Wedd.	ムカゴイラクサ			●	●	●		
	72	<i>Pilea mongolica</i> Wedd.	アオミズ			●		●		
	73	<i>Urtica angustifolia</i> Fischer	ホソバイラクサ					●		
	74	<i>Urtica laetevirens</i> Maxim.	コバノイラクサ					●		
	75	<i>Urtica platyphylla</i> Wedd.	エゾイラクサ			●	●	●		
	76	<i>Asiasarum heterotropoides</i> (Fr.Schm.) F.Maek.	オクエゾサイシン		道R	●		●		

科名	No.	学名	和名	帰化	RDB	小川 2002	大川 2002	小川 横山	大川 横山	横山備考	
タデ科	77	<i>Polygonum aviculare</i> L.	ミチヤナギ			●					
	78	<i>Persicaria yokusaiana</i> (Makino) Nakai	ハナタデ			●	●				
	79	<i>Persicaria lapathifolia</i> (L.) S.F.Gray	オオイスタデ							●豊頃茂岩	
	80	<i>Persicaria longiseta</i> (De Bruyn) Kitag.	イスタデ			●					
	81	<i>Persicaria nepalensis</i> (Meisn.) H.Gross	タニソバ			●	●				
	82	<i>Persicaria perfoliata</i> (L.) H.Gross	イシミカワ			●				●豊頃茂岩	
	83	<i>Reynoutria sachalinensis</i> (Fr.Schm.) Nakai	オオイタドリ			●	●				
	84	<i>Persicaria sieboldi</i> (Meisn.) Ohki	アキノウナギツカミ			●					
	85	<i>Persicaria thunbergii</i> (Sieb. et Zucc.) H.Gross	ミソソバ			●	●	●		オオミソソバ	
	86	<i>Persicaria viscofera</i> (Makino) H.Gross	アオエダウチネバリタデ					●			
	87	<i>Persicaria makinoi</i> (Nakai) Nakai	オオネバリタデ							●豊頃	
	88	<i>Rumex acetosella</i> L.	ヒメスイバ	N		●					
	89	<i>Rumex crispus</i> L.	ナガバギシギシ	N		●					
	90	<i>Rumex longifolius</i> DC.	ノダイオウ		環VU	●		●			
	91	<i>Rumex obtusifolius</i> L.	エゾノギシギシ	N		●					
	アカザ科	92	<i>Chenopodium album</i> L.	シロザ	N		●	●			
	ナデシコ科	93	<i>Cerastium holosteoides</i> Fries var. <i>hallaisanense</i> (Nakai) Mizushima	ミミナグサ			●				
		94	<i>Cucubalus baccifer</i> L. var. <i>japonicus</i> Miq.	ナンバンハコベ			●		●		
		95	<i>Dianthus superbus</i> L. var. <i>superbus</i>	エゾカワラナデシコ				●			
96		<i>Myosoton aquaticum</i> (L.) Moench	ウシハコベ			●		●			
97		<i>Silene firma</i> Sieb. et Zucc.	フシグロ					●		ケフシグロ	
98		<i>Moehringia lateriflora</i> (L.) Fenzl	オオヤマフスマ			●	●				
99		<i>Pseudostellaria sylvatica</i> (Maxim.) Pax	クシロワチガイソウ		道Vw/環VU	●		●			
100		<i>Sagina japonica</i> (Sw.) Ohwi	ツメクサ			●					
101		<i>Stellaria alsine</i> Grimm var. <i>undulata</i> (Thunb.) Ohwi	ノミノフスマ			●					
102		<i>Stellaria fenzlii</i> Regel	シラオイハコベ			●		●			
103		<i>Stellaria longifolia</i> L.	ナガバツメクサ		緑			●			
104		<i>Stellaria media</i> (L.) Villars	ハコベ	N		●					
105		<i>Stellaria radicans</i> L.	エゾオオヤマハコベ		緑	●		●			
106		<i>Stellaria sessiliflora</i> Yabe	ミヤマハコベ					●			
カツラ科	107	<i>Cercidiphyllum japonicum</i> Sieb. et Zucc.	カツラ			●	●	●			
キンポウゲ科	108	<i>Aconitum gigas</i> Lev. et Vant.	エゾノレイジンソウ		緑	●		●			
	109	<i>Aconitum yesoense</i> Nakai	エゾトリカブト			●	●				
		<i>Aconitum yesoense</i> Nakai var. <i>corymbiferum</i> (Nakai) Tamura	ウスバトリカブト							●豊頃	
	110	<i>Actaea erythrocarpa</i> Fisch.	アカミノレイヨウショウマ		緑	●		●		●豊頃	
	111	<i>Anemone debilis</i> Fisch.	ヒメイチゲ							●豊頃	
	112	<i>Aquilegia buergeriana</i> Sieb. et Zucc. var. <i>oxysepala</i> (Trautv. et Mey.) Kitam.	オオヤマオダマキ			●					
	113	<i>Caltha palustris</i> L. var. <i>farthei</i> Hance	エゾノリュウキンカ			●				●豊頃	
	114	<i>Cimicifuga simplex</i> Wormsk.	サラシナショウマ			●	●	●		エゾショウマ	
	115	<i>Clematis ochotensis</i> (Pall.) Poiret	ミヤマハンショウヅル					●			
	116	<i>Paeonia japonica</i> (Makino) Miyabe et Takeda	ヤマシャクヤク		道R/環VU			●			
	117	<i>Ranunculus silerifolius</i> Lev.	キツネノボタン			●		●		ヤマキツネノボタン	
	118	<i>Thalictrum foetidum</i> L. var. <i>glabrescens</i> Takeda	チャボカラマツ		環VU			●			
119	<i>Thalictrum minus</i> L. var. <i>hypoleucum</i> (Sieb. et Zucc.) Miq.	アキカラマツ			●	●					
	<i>Thalictrum minus</i> L. var. <i>stipellatum</i> (C.A.Mey.) Tamura	コカラマツ					●				
120	<i>Thalictrum sachalinense</i> Lecoy.	エゾカラマツ			●	●	●				

科名	No.	学名	和名	帰化	RDB	小川 2002	大川 2002	小川 横山	大川 横山	横山備考	
メギ科	121	<i>Berberis thunbergii</i> DC.	メギ		E	●					
	122	<i>Caulophyllum robustum</i> Maxim.	レイヨウボタン					●			
モクレン科	123	<i>Magnolia praecocissima</i> Koidz. var. <i>borealis</i> (Sargent) Koidz.	キタコブシ			●					
	124	<i>Magnolia obovata</i> Thunb.	ホオノキ			●		●			
マツブサ科	125	<i>Schisandra chinensis</i> (Turcz.) Baill.	チョウセンゴミシ			●	●				
ケシ科	126	<i>Chelidonium majus</i> L. var. <i>asiaticum</i> (Hara) Ohwi	クサノオウ			●	●				
	127	<i>Corydalis kushiroensis</i> Fukuhara	チドリケマン		環NT	●		●		ツルキケマン	
アブラナ科	128	<i>Arabis lyrata</i> L. var. <i>kamtschatica</i> Fisch.	ミヤマハタザオ			●	●				
	129	<i>Arabis pendula</i> L.	エゾハタザオ					●			
	130	<i>Camelina alyssum</i> (Miller) Thell.	アマナズナ		N			●		帰化	
	131	<i>Cardamine leucantha</i> (Tausch) O.E.Schulz	コンロンソウ			●				●豊頃	
	132	<i>Cardamine regeliana</i> Miq.	ヤマタネツケバナ			●		●		オオバタネツケバナ	
	133	<i>Rorippa islandica</i> (Oeder) Borlas	スカシタゴボウ			●					
	134	<i>Rorippa sylvestris</i> Besser	キレハイヌガラシ		N	●					
ベンケイソウ科	135	<i>Sedum aizoon</i> L. var. <i>aizoon</i>	ホソバノキリンソウ			●	●	●			
	136	<i>Sedum kamtschaticum</i> Fisch.	エゾキリンソウ			●	●				
	137	<i>Hylotelephium verticillatum</i> (L.) H.Ohba	ミツバベンケイソウ			●					
ユキノシタ科	138	<i>Astilbe thunbergii</i> (Sieb. et Zucc.) Miq. var. <i>congesta</i> H.Boiss.	トリアシショウマ							●豊頃	
	139	<i>Chrysosplenium flagelliferum</i> Fr.Schm.	ツルネコノメソウ			●		●			
	140	<i>Chrysosplenium grayanum</i> Maxim.	ネコノメソウ			●		●			
	141	<i>Chrysosplenium kamtschaticum</i> Fisch. ex Seringe	チシマネコノメソウ			●					
	142	<i>Hydrangea serrata</i> (Thunb. ex Murray) Ser. var. <i>megacarpa</i> (Ohwi) H.Ohba	エゾアジサイ			●					
	143	<i>Hydrangea paniculata</i> Sieb. et Zucc.	ノリウツギ			●	●	●			
		<i>Hydrangea paniculata</i> Sieb. et Zucc. var. <i>intermedia</i> H. Boiss	アジサイノリウツギ			●	●				
	144	<i>Hydrangea petiolaris</i> Sieb. et Zucc.	ツルアジサイ			●		●			
	145	<i>Ribes latifolium</i> Janczewski	エゾスグリ			緑	●	●			
	146	<i>Ribes triste</i> Pallas	トカチスグリ			環EN	●				
	147	<i>Saxifraga fortunei</i> Hook. fil. var. <i>incislobata</i> (Engl. et Irmsh.) Nakai	ダイヤモンドソウ				●	●			
	148	<i>Saxifraga fusca</i> Maxim. var. <i>fusca</i>	エゾクロクモソウ				●		●		
149	<i>Saxifraga japonica</i> H.Boiss.	フキユキノシタ				●					
150	<i>Saxifraga sachalinensis</i> Fr.Schm.	ヤマハナソウ			緑	●	●				
151	<i>Schizophragma hydrangeoides</i> Sieb. et Zucc.	イワガラミ				●		●			
152	<i>Tiarella polyphylla</i> D.Don	ズダヤクシュ						●			

科名	No.	学名	和名	帰化	RDB	小川 2002	大川 2002	小川 横山	大川 横山	横山備考
バラ科	153	<i>Agrimonia pilosa</i> Ledeb. var. <i>japonica</i> (Miq.) Nakai	キンミズヒキ			●	●			
	154	<i>Arunacus dioicus</i> (Walt.) Fern. var. <i>tenuifolius</i> (Nakai) Hara	ヤマブキショウマ			●	●			
	155	<i>Crataegus chlorosarca</i> Maxim.	クロミサンザシ		道C/環CR/緑			●		エゾサンザシ
	156	<i>Filipendula kamschatica</i> (Pall.) Maxim.	オニシモツケ			●	●	●		
	157	<i>Filipendula yezoensis</i> Hara	エゾノシモツケソウ			●				
	158	<i>Geum aleppicum</i> Jacq.	オオダイコンソウ			●		●		
	159	<i>Geum japonicum</i> Thunb.	ダイコンソウ			●				
	160	<i>Geum macrophyllum</i> Willd. var. <i>sachalinense</i> (Koidz.) Hara	カラフトダイコンソウ			●		●		
	161	<i>Potentilla cryptotaeniae</i> Maxim.	ミツモトソウ			●				
	162	<i>Potentilla dickinsii</i> Fr. et Sav.	イワキンバイ					●		
	163	<i>Potentilla fragarioides</i> L. var. <i>major</i> Maxim.	キジムシロ				●			●豊頃
	164	<i>Potentilla freyniana</i> Bornm.	ミツバツチグリ				●	●		
	165	<i>Potentilla norvegica</i> L.	エゾノミツモトソウ	N		●				
	166	<i>Prunus maximowiczii</i> Ruprecht	ミヤマザクラ			●	●	●		
	167	<i>Prunus padus</i> L.	エゾノウワミズザクラ					●		
	168	<i>Prunus sargentii</i> Rehder	エゾヤマザクラ			●	●			
	169	<i>Prunus ssiori</i> Fr.Schm.	シウリザクラ			●	●			
	170	<i>Rosa marretii</i> Leveille	カラフトイバラ		道R		●			
	171	<i>Rosa acicularis</i> Lindl.	オオタカネバラ					●		タカネバラ
	172	<i>Rubus crataegifolius</i> Bunge	クマイチゴ			●	●	●		
	173	<i>Rubus matsumuranus</i> Lev. et Vant.	エゾイチゴ			●	●			
	174	<i>Rubus mesogaeus</i> Focke	クロイチゴ			●	●	●		
	175	<i>Rubus phoenicolasius</i> Maxim.	エビガライチゴ					●		
	176	<i>Sanguisorba tenuifolia</i> Fisch. ex Link var. <i>alba</i> Trautv. et Mey.	ナガボノシロワレモコウ				●	●		
	177	<i>Sorbaria sorbifolia</i> (L.) A.Br.	ホザキナナカマド					●		
	178	<i>Sorbus alnifolia</i> (Sieb. et Zucc.) C.Koch	アズキナシ			●	●			
	179	<i>Sorbus commixta</i> Hedl.	ナナカマド			●		●		
	180	<i>Spiraea salicifolia</i> L.	ホザキシモツケ		環VU		●			
181	<i>Spiraea sericea</i> Turcz.	エゾシモツケ		環EN		●	●			
182	<i>Waldsteinia ternata</i> (Steph.) Fritsch	コキンバイ			●	●				
マメ科	183	<i>Amphicarpea bracteata</i> (L.) Fernald subsp. <i>edgeworthii</i> (Benth.) Ohashi var. <i>japonica</i> (Oliver) Ohashi	ヤブマメ			●	●			
	184	<i>Astragalus membranaceus</i> Bunge	キバナオウギ		道R		●	●		タイツリオウギ
	185	<i>Desmodium podocarpum</i> DC. subsp. <i>oxyphyllum</i> (DC.) Ohashi var. <i>mandshuricum</i> Maxim.	ヤブハギ				●	●		ヌスピトハギ
	186	<i>Lespedeza bicolor</i> Turcz.	エゾヤマハギ			●	●			●豊頃
	187	<i>Maackia amurensis</i> Rupr. et Maxim. subsp. <i>buergeri</i> (Maxim.) Kitamura	イヌエンジュ			●	●	●		
	188	<i>Trifolium pratense</i> L.	ムラサキツメクサ	N		●	●			
	189	<i>Trifolium repens</i> L.	シロツメクサ	N		●	●			
	190	<i>Vicia cracca</i> L.	クサフジ			●	●	●		ホソバクサフジ
191	<i>Vicia unijuga</i> A.Br.	ナンテンハギ				●			●豊頃	
フウロソウ科	192	<i>Geranium erianthum</i> DC.	チシマフウロ				●	●	●	
	193	<i>Geranium sibiricum</i> L. var. <i>glabrius</i> (Hara) Ohwi	イチゲフウロ					●		
	194	<i>Geranium nepalense</i> Sweet subsp. <i>thunbergii</i> (Sieb. et Zucc.) Hara	ゲンノショウコ			●	●			●豊頃
	195	<i>Geranium wilfordii</i> Maxim.	ミツバフウロ			●	●			

科名	No.	学名	和名	帰化	RDB	小川 2002	大川 2002	小川 横山	大川 横山	横山備考
カタバミ科	196	<i>Oxalis fontana</i> Bunge	エゾタチカタバミ			●				
ミカン科	197	<i>Phellodendron amurense</i> Rupr.	ヒロハノキハダ			●	●	●		
ツゲ科	198	<i>Pachysandra terminalis</i> Sieb. et Zucc.	フッキソウ			●	●			
ウルシ科	199	<i>Rhus ambigua</i> Lavall. ex Dipp.	ツタウルシ			●	●	●		
ニシキギ科	200	<i>Celastrus orbiculatus</i> Thunb.	ツルウメモドキ			●	●			
	201	<i>Euonymus alatus</i> (Thunb.) Sieb.	ニシキギ			●	●	●		ケニシキギ
	202	<i>Euonymus macropterus</i> Rupr.	ヒロハツリバナ			●		●		
	203	<i>Euonymus oxyphyllus</i> Miq.	ツリバナ			●	●			●豊頃
	204	<i>Euonymus sieboldianus</i> Bl.	マユミ			●		●		
ミツバウツギ科	205	<i>Staphylea bumalda</i> (Thunb.) DC.	ミツバウツギ			●	●			
カエデ科	206	<i>Acer ginnala</i> Maxim.	カラコギカエデ			●	●			●豊頃
	207	<i>Acer japonicum</i> Thunb.	ハウチワカエデ			●	●	●		オウメイゲツ
	208	<i>Acer miyabei</i> Maxim.	クロビイタヤ		環EN/緑	●				
	209	<i>Acer mono</i> Maxim. <i>Acer mono</i> Maxim. var. <i>mayrii</i> (Schwerin) Sugimoto	イタヤカエデ ベニイタヤ			●	●	●		エゾイタヤ・エゾ モミジイタヤなど
	210	<i>Acer amoenum</i> Carr.	オオモミジ			●	●	●		ヤマモミジ
ツリフネソウ科	211	<i>Impatiens noli-tangere</i> L.	キツリフネ			●	●			
	212	<i>Impatiens textori</i> Miq.	ツリフネソウ			●				●豊頃
クロウメモドキ科	213	<i>Rhamnus japonica</i> Maxim. var. <i>japonica</i>	エゾノクロウメモドキ				●	●		クロウメモドキ
ブドウ科	214	<i>Vitis coignetiae</i> Pulliat ex Planch.	ヤマブドウ			●	●			●豊頃
シナノキ科	215	<i>Tilia japonica</i> (Miq.) Simonkai	シナノキ			●	●	●		
	216	<i>Tilia maximowicziana</i> Shirasawa	オオバボダイジュ			●				
		<i>Tilia maximowicziana</i> Shirasawa var. <i>yessoana</i> (Nakai) Tatewaki	モイワボダイジュ						●	
マタタビ科	217	<i>Actinidia arguta</i> (Sieb. et Zucc.) Planch. ex Miq.	サルナシ			●	●			
	218	<i>Actinidia kolomikta</i> (Rupr. et Maxim.) Maxim.	ミヤママタタビ			●	●			
	219	<i>Actinidia polygama</i> (Sieb. et Zucc.) Planch. ex Maxim.	マタタビ			●				
オトギリソウ科	220	<i>Hypericum ascyron</i> L.	トモエソウ			●	●			
	221	<i>Hypericum erectum</i> Thunb.	オトギリソウ			●				
スミレ科	222	<i>Viola acuminata</i> Ledeb.	エゾノタチツボスミレ			●				
	223	<i>Viola collina</i> Bess.	マルバケスミレ				●			
	224	<i>Viola grypoceras</i> A.Gray	タチツボスミレ			●	●			
	225	<i>Viola langsdorfii</i> Fisch. subsp. <i>sachalinensis</i> W.Becker	オオバタチツボスミレ		環VU			●		
	226	<i>Viola sachalinensis</i> H.Boiss.	アイヌタチツボスミレ				●	●		コウライタチツボスミレ
	227	<i>Viola selkirkii</i> Pursh	ミヤマスミレ			●		●		
	228	<i>Viola verecunda</i> A.Gray	ツボスミレ			●	●			
	アカバナ科	229	<i>Chmaenerion angustifolium</i> (L.) Scop.	ヤナギラン				●	●	
230		<i>Circaea alpina</i> L.	ミヤマタニタデ			●				
231		<i>Circaea erubescens</i> Fr. et Sav.	タニタデ			●	●			
232		<i>Circaea quadrisulcata</i> (Maxim.) Fr. et Sav.	ヤマタニタデ		環VU	●				
233		<i>Epilobium fastigiatoramosum</i> Nakai	エダウチアカバナ		環E/環CR/緑			●		
234		<i>Epilobium glandulosum</i> Lehm. var. <i>asiaticum</i> Hara	カラフトアカバナ			●				
235		<i>Epilobium palustre</i> L.	ホソバアカバナ					●		
236		<i>Oenothera biennis</i> L.	メマツヨイグサ		N	●	●			

科名	No.	学名	和名	帰化	RDB	小川 2002	大川 2002	小川 横山	大川 横山	横山備考
ウコギ科	237	<i>Acanthopanax divaricatus</i> (Sieb. et Zucc.) Seem.	ケヤマウコギ			●		●		オニウコギ
	238	<i>Eleutherococcus sciadophylloides</i> (Fr. & Sav.) Ohashi	コシアブラ					●		
	239	<i>Eleutherococcus senticosus</i> (Rupr. & Maxim.) Maxim.	エソウコギ			●	●	●		
	240	<i>Aralia cordata</i> Thunb.	ウド			●	●			
	241	<i>Aralia elata</i> (Miq.) Seemann	タラノキ			●	●			
	242	<i>Kalopanax pictus</i> (Thunb.) Nakai	ハリギリ			●	●	●		
セリ科	243	<i>Angelica edulis</i> Miyabe ex Yabe	アマニューウ			●	●			
	244	<i>Angelica genuflexa</i> Nuttall	オオバセンキュウ			●				
	245	<i>Angelica anomala</i> Lallemand	エゾノヨロイグサ			●	●			
	246	<i>Bupleurum longeradiatum</i> Turcz. subsp. <i>sachalinense</i> (Fr.Schm.) Kitag. var. <i>elatius</i> Kitag.	ホタルサイコ			●	●	●		トカチサイコ/ ホタルサイコは ●豊頃に分布
	247	<i>Chamaele decumbens</i> (Thunb.) Makino	セントウソウ			●				
	248	<i>Cryptotaenia japonica</i> Hassk.	ミツバ			●	●			
	249	<i>Heracleum dulce</i> Fisch.	オオハナウド			●	●	●		
	250	<i>Oenanthe javanica</i> DC.	セリ			●				
	251	<i>Osmorhiza aristata</i> (Thunb.) Rydb.	ヤブニンジン					●		
	252	<i>Peucedanum terebinthaceum</i> Fisch.	カワラボウフウ					●		
	253	<i>Sanicula chinensis</i> Bunge	ウマノミツバ			●	●			
	254	<i>Torilis japonica</i> (Houtt.) DC.	ヤブジラミ			●				
ミズキ科	255	<i>Swida controversa</i> (Hemsl.) Sojak	ミズキ			●	●	●		
イチヤクソウ科	256	<i>Chimaphila japonica</i> Miq.	ウメガサソウ					●		
	257	<i>Pyrola incarnata</i> Fischer	ベニバナイチヤクソウ					●		
	258	<i>Pyrola renifolia</i> Maxim.	ジンヨウイチヤクソウ			●		●		
ツツジ科	259	<i>Leucothoe grayana</i> Maxim.	ハナヒリノキ				●	●		ヒロハハナヒリノキ
	260	<i>Menziesia pentandra</i> Maxim.	コヨウラクツツジ					●		
	261	<i>Rhododendron albrechtii</i> Maxim.	ムラサキヤシオ					●		ムラサキヤシオツツジ
	262	<i>Rhododendron brachycarpum</i> G.Don	ハクサンシャクナゲ			●	●	●		エゾシャクナゲ
	263	<i>Rhododendron dauricum</i> L.	エゾムラサキツツジ		環VU/緑			●		
	264	<i>Rhododendron obtusum</i> (Lindl.) Planchon var. <i>kaempferi</i> (Planchon) Wilson	ヤマツツジ					●		エゾヤマツツジ
サクラソウ科	265	<i>Lysimachia clethroides</i> Duby	オカトラノオ			●	●	●		
	266	<i>Lysimachia vulgaris</i> L. var. <i>davurica</i> (Ledeb.) R.Kunth	クサレダマ					●		
	267	<i>Primula japonica</i> A.Gray	クリンソウ		道Vu	●	●			
	268	<i>Trientalis europaea</i> L.	ツマトリソウ				●	●		
エゴノキ科	269	<i>Styrax obassia</i> Sieb. et Zucc.	ハクウンボク					●		
モクセイ科	270	<i>Fraxinus lanuginosa</i> Koidz. f. <i>serrata</i> (Nakai) Murata	アオダモ			●	●	●		
	271	<i>Fraxinus mandshurica</i> Rupr. var. <i>japonica</i> Maxim.	ヤチダモ			●	●			
	272	<i>Syringa reticulata</i> (Bl.) Hara	ハシドイ			●	●			
ガガイモ科	273	<i>Cynanchum caudatum</i> (Miq.) Maxim.	イケマ			●				
ヒルガオ科	274	<i>Calystegia japonica</i> Choisy	ヒルガオ			●	●	●		ホソバヒルガオ
	275	<i>Calystegia sepium</i> (L.) R.Br.	ヒロハヒルガオ					●		

科名	No.	学名	和名	帰化	RDB	小川 2002	大川 2002	小川 横山	大川 横山	横山備考
シソ科	276	<i>Agastache rugosa</i> (Fisch. et Mey.) O.Kuntze	カワミドリ			●	●		●	キタカワミドリ
	277	<i>Ajuga ciliata</i> Bunge var. <i>villosior</i> A.Gray	カイジンドウ		環EN					●豊頃
	278	<i>Clinopodium chinense</i> (Benth.) O.Kuntze subsp. <i>grandiflorum</i> (Maxim.) Hara var. <i>parviflorum</i> (Kudo) Hara	クルマバナ			●	●			
	279	<i>Clinopodium micranthum</i> (Regel) Hara	イヌトウバナ			●				
	280	<i>Clinopodium sachalinense</i> (Fr.Schm.) Koidz.	ミヤマトウバナ			●				
	281	<i>Lycopus uniflorus</i> Michx.	エゾシロネ			●	●			●豊頃
	282	<i>Prunella vulgaris</i> L. subsp. <i>asiatica</i> (Nakai) Hara var. <i>aleutica</i> Fern.	ミヤマウツボグサ			●				
	283	<i>Scutellaria pekinensis</i> Maxim. var. <i>ussuriensis</i> (Regel) Hand.-Mazz.	エゾタツナミソウ			●		●		
	284	<i>Stachys riederi</i> Chamisso var. <i>intermedia</i> (Kudo) Kitam.	イヌゴマ			●			●	
ゴマノハグサ科	285	<i>Mimulus nepalensis</i> Benth. var. <i>japonicus</i> Miq.	ミゾホオズキ			●				
	286	<i>Veronica americana</i> (Rafin.) Schwein.	エゾノカワジシャ		緑					●豊頃
	287	<i>Veronicastrum sibiricum</i> (L.) Pennell subsp. <i>japonicum</i> (Nakai) Yamazaki	クガイソウ						●	エゾノクガイソウ
ハエドクソウ科	288	<i>Phryma leptostachya</i> L. var. <i>asiatica</i> Hara	ハエドクソウ			●	●	●		
オオバコ科	289	<i>Plantago asiatica</i> L.	オオバコ			●	●	●		
アカネ科	290	<i>Asperula odorata</i> L.	クルマバソウ			●				
	291	<i>Galium boreale</i> L. var. <i>kamtschaticum</i> Maxim.	エゾノキスタソウ		環VU					●豊頃
	292	<i>Galium kamtschaticum</i> Steller var. <i>kamtschaticum</i>	エゾノヨツバムグラ			●				
	293	<i>Galium hikumugura</i> Ohwi	キクムグラ					●		
	294	<i>Galium nakaii</i> Kudo	ミヤマキスタソウ		緑	●		●		
	295	<i>Galium paradoxum</i> Maxim.	ミヤマムグラ					●		
	296	<i>Galium pseudo-asprellum</i> Makino	オオバノヤエムグラ			●				●豊頃
	297	<i>Galium trifloriforme</i> Komar. var. <i>trifloriforme</i>	オククルマムグラ			●				
	298	<i>Galium verum</i> L. var. <i>trachycarpum</i> DC.	エゾノカワラマツバ					●		
スイカズラ科	299	<i>Lonicera chrysantha</i> Turcz. var. <i>crassipes</i> Nakai	ネムロブシダマ		環VU/緑	●				
	300	<i>Sambucus racemosa</i> L. subsp. <i>kamtschatica</i> (E.Wolf) Hulten	エゾニワトコ			●	●			
	301	<i>Viburnum furcatum</i> Bl. ex Maxim.	オオカメノキ			●		●		
	302	<i>Viburnum opulus</i> L. var. <i>calvescens</i> (Rehder) Hara	カンボク			●	●			
	303	<i>Viburnum wrightii</i> Miq.	ミヤマガマズミ					●		
レンブクソウ科	304	<i>Adoxa moschatellina</i> L.	レンブクソウ					●		
オミナエシ科	305	<i>Patrinia villosa</i> (Thunb.) Juss.	オトコエシ			●	●			
	306	<i>Valeriana fauriei</i> Briq.	カノコソウ					●		
ウリ科	307	<i>Schizopepon bryoniaefolius</i> Maxim.	ミヤマニガウリ			●	●			●豊頃
キキョウ科	308	<i>Adenophora pereskiaefolia</i> (Fisch.) Fisch. var. <i>moiwana</i> (Nakai) Hara	モイワシャジン				●			●豊頃
	309	<i>Adenophora triphylla</i> (Thunb.) A.DC. var. <i>japonica</i> (Regel) Hara	ツリガネニンジン					●		ナガバシャジン

科名	No.	学名	和名	帰化	RDB	小川 2002	大川 2002	小川 横山	大川 横山	横山備考
キク科	310	<i>Achillea millefolium</i> L.	セイヨウノコギリソウ	N		●				
	311	<i>Achillea ptarmica</i> L. subsp. <i>macrocephala</i> (Ruprecht) Heimerl	エゾノコギリソウ					●		
	312	<i>Adenocaulon himalaicum</i> Edgew.	ノブキ			●		●		
	313	<i>Anaphalis margaritacea</i> (L.) Benth. et Hook.fil.	ヤマハハコ			●		●		ホソバノヤマハハコ
	314	<i>Artemisia iwayomogi</i> Kitam.	イワヨモギ		環VU		●			
	315	<i>Artemisia japonica</i> Thunb. f. <i>resedifolia</i> Takeda	ホソバノオトコヨモギ					●		
	316	<i>Artemisia keiskeana</i> Miq.	イヌヨモギ				●			
	317	<i>Artemisia koidzumii</i> Nakai	ヒロハウラジロヨモギ					●		
	318	<i>Artemisia montana</i> (Nakai) Pamp.	オオヨモギ			●	●			●豊頃
	319	<i>Aster ageratoides</i> Turcz. subsp. <i>ovatus</i> (Fr. et Sav.) Kitam. var. <i>yezoensis</i> Kitam.	エゾノコンギク			●			●	
	320	<i>Aster glehni</i> Fr.Schm. var. <i>glehni</i>	エゾゴマナ				●			
	321	<i>Aster scaber</i> Thunb.	シラヤマギク				●	●		
	322	<i>Cacalia auriculata</i> DC. var. <i>kamtschatica</i> (Maxim.) Matsum.	ミミコウモリ			●		●		
	323	<i>Cacalia hastata</i> L. subsp. <i>orientalis</i> Kitam.	ヨブスマソウ			●	●	●		
	324	<i>Carpesium triste</i> Maxim.	ミヤマヤブタバコ			●	●	●		ミヤマガンクビソウ
	325	<i>Cirsium kamtschaticum</i> Ledeb.	チシマアザミ			●				
			<i>Cirsium kamtschaticum</i> Ledeb. subsp. <i>pectinellum</i> (A.Gray) Kitam.	エゾノサワアザミ			●		●	
	326	<i>Cirsium pendulum</i> Fischer	タカアザミ			●				
	327	<i>Cirsium perplexissimum</i> Kitam.	マヨワセアザミ						●	
	328	<i>Erigeron acer</i> L.	エゾムカシヨモギ		緑	●	●	●		
			<i>Erigeron acer</i> L. var. <i>kamtschaticus</i> (DC.) Herder	ムカシヨモギ		緑			●	
	329	<i>Stenactis annuus</i> (L.) Cass.	ヒメジョオン	N		●	●			
	330	<i>Erigeron canadensis</i> L.	ヒメムカシヨモギ	N		●			●	
	331	<i>Eupatorium chinense</i> L.	ヒヨドリバナ					●		
			<i>Eupatorium chinense</i> L. subsp. <i>sachalinense</i> (Fr.Schm.) Kitam.	ヨツバヒヨドリ			●			●豊頃
	332	<i>Eupatorium lindleyanum</i> DC.	サワヒヨドリ							●豊頃
	333	<i>Hieracium umbellatum</i> L.	ヤナギタンポポ				●	●		
	334	<i>Ixeris dentata</i> (Thunb.) Nakai	ハナニガナ			●				
	335	<i>Ixeris stolonifera</i> A.Gray	イワニガナ							●豊頃
	336	<i>Lactuca raddeana</i> Maxim. var. <i>elata</i> (Hemsl.) Kitam.	ヤマニガナ				●			
	337	<i>Leibnitzia anandria</i> (L.) Turcz.	センボンヤリ			●	●	●		
	338	<i>Petasites japonicus</i> (Sieb. et Zucc.) Maxim. subsp. <i>giganteus</i> (Fr.Schm.) Kitam.	アキタブキ			●	●			
	339	<i>Picris hieracioides</i> L. subsp. <i>japonica</i> (Thunb.) Krylov	コウゾリナ			●			●	
	340	<i>Rudbeckia laciniata</i> L.	オオハンゴンソウ	N		●				
341	<i>Senecio cannabinifolius</i> Less.	ハンゴンソウ			●	●				
342	<i>Senecio nemorensis</i> L.	キオン					●			
343	<i>Solidago gigantea</i> Ait. var. <i>leiophylla</i> Fernald	オオアワダチソウ	N		●	●				
344	<i>Solidago virgaurea</i> L. subsp. <i>leiocarpa</i> (Benth.) Hulten f. <i>japonalpestris</i> Kitam.	コガネギク			●	●	●			
345	<i>Taraxacum officinale</i> Weber	セイヨウタンポポ	N		●	●				
346	<i>Youngia denticulata</i> (Houttuyn) Kitam.	ヤクシソウ			●	●		●		
347	<i>Youngia japonica</i> (L.) DC.	オニタビラコ					●			
ヒルムシロ科	348	<i>Potamogeton berchtoldii</i> Fieber	イトモ		環VU					●豊頃
	349	<i>Potamogeton natans</i> L.	オオヒルムシロ							●豊頃

科名	No.	学名	和名	帰化	RDB	小川 2002	大川 2002	小川 横山	大川 横山	横山備考
トチカガミ科	350	<i>Hydrilla verticillata</i> (L.fil.) Caspary	クロモ							●豊頃
イネ科	351	<i>Agropyron yezoense</i> Honda	エゾカモジグサ					●		
	352	<i>Agrostis alba</i> L.	コヌカグサ	N		●	●			
	353	<i>Alopecurus aequalis</i> Sobol. var. <i>amurensis</i> (Komar.) Ohwi	スズメノテッポウ			●				
	354	<i>Beckmannia syzigachne</i> (Steud.) Fern.	ミノゴメ			●				
	355	<i>Bromus pauciflorus</i> (Thunb.) Hack.	キツネガヤ			●				
	356	<i>Brylkinia caudata</i> (Munro) Fr.Schm.	ホガエリガヤ			●				
	357	<i>Calamagrostis langsdorffii</i> (Link) Trin.	イワノガリヤス			●	●	●		
	358	<i>Calamagrostis epigeios</i> (L.) Roth	ヤマアワ			●		●		
	359	<i>Calamagrostis hakonensis</i> Fr. et Sav.	ヒメノガリヤス			●		●		
	360	<i>Calamagrostis sachalinensis</i> Fr.Schm.	タカネノガリヤス					●		
	361	<i>Dactylis glomerata</i> L.	カモガヤ	N		●	●			
	362	<i>Diarrhena japonica</i> Fr. et Sav.	タツノヒゲ			●			●	
	363	<i>Elymus dahuricus</i> Turcz.	ハナムギ					●		
	364	<i>Elymus sibiricus</i> L.	エゾムギ					●		
	365	<i>Festuca arundinacea</i> Schreb.	オニウシノケグサ	N			●			
	366	<i>Festuca extremorientalis</i> Ohwi	オオトボシガラ			●				
	367	<i>Milium effusum</i> L.	イブキスカボ			●				
	368	<i>Miscanthus sinensis</i> Anderss.	ススキ				●	●		エゾススキ
	369	<i>Muhlenbergia longistolon</i> Ohwi	オオネズミガヤ					●		
	370	<i>Muhlenbergia curvistarata</i> (Ohwi) Ohwi var. <i>nipponica</i> Ohwi	ミヤマネズミガヤ			●				
	371	<i>Phalaris arundinacea</i> L.	クサヨシ	N		●	●			
	372	<i>Phleum pratense</i> L.	オオアワガエリ	N		●				
	373	<i>Phragmites communis</i> Trin.	ヨシ			●	●		●	キタヨシ
	374	<i>Phragmites japonica</i> Steud.	ツルヨシ			●				
	375	<i>Poa annua</i> L.	スズメノカタビラ			●				
	376	<i>Poa nemoralis</i> L.	タチイチゴツナギ	N	環EN	●				
	377	<i>Poa pratensis</i> L.	ナガハグサ	N		●	●			
	378	<i>Sasa chariacea</i> (Makino) Makino	エゾノミヤコザサ			●		●		
	379	<i>Sasa senanensis</i> (Fr. et Sav.) Rehder	クマイザサ			●	●	●		
	380	<i>Setaria glauca</i> (L.) Beauv.	キンエノコロ			●				
	381	<i>Setaria viridis</i> (L.) Beauv. subsp. <i>minor</i> T. Koyama f. <i>miseria</i> Honda.	ムラサキエノコロ			●				
	382	<i>Stipa pekinensis</i> Hance	ハネガヤ			●	●	●		
	383	<i>Zizania latifolia</i> Turcz.	マコモ							●豊頃
カヤツリグサ科	384	<i>Carex dispalata</i> Boott	カサスゲ			●	●			
	385	<i>Carex augustinowiczii</i> Meinsh.	ヒラギシスゲ			●				
	386	<i>Carex blepharicarpa</i> Franch.	ショウジョウスゲ			●	●			
	387	<i>Carex conica</i> Boott	ヒメカンスゲ			●	●			
	388	<i>Carex drymophila</i> Turcz. var. <i>abbreviata</i> (Kukenth.) Ohwi	アカンカサスゲ		道R	●				
	389	<i>Carex fedia</i> Nees var. <i>miyabei</i> (Franch.) T.Koyama	ピロウドスゲ			●				
	390	<i>Carex hakonensis</i> Fr. et Sav.	コハリスゲ			●				
	391	<i>Carex humilis</i> Leyss. var. <i>nana</i> (Lev. et Vant.) Ohwi	ホソバヒカゲスゲ			●	●			
	392	<i>Carex incisa</i> Boott	カワラスゲ			●				
	393	<i>Carex japonica</i> Thunb.	ヒゴクサ			●				
	394	<i>Carex pallida</i> C.A.Mey.	ウスイロスゲ		環VU	●				
	395	<i>Carex pilosa</i> Scop.	サッポロスゲ			●	●			
	396	<i>Carex sachalinensis</i> Fr.Schm. var. <i>sachalinensis</i>	ゴンゲンスゲ			●				
	397	<i>Carex siderosticta</i> Hance	タガネソウ			●	●			
	398	<i>Scirpus wichuræ</i> Bocklr.	アブラガヤ			●				

科名	No.	学名	和名	帰化	RDB	小川 2002	大川 2002	小川 横山	大川 横山	横山備考
サトイモ科	399	<i>Lysichiton camtschatcense</i> (L.) Schott	ミズバショウ			●				
	400	<i>Symplocarpus foetidus</i> Nutt. var. <i>latissimus</i> (Makino) Hara	ザゼンソウ			●				
ツユクサ科	401	<i>Commelina communis</i> L.	ツユクサ			●				
イグサ科	402	<i>Juncus effusus</i> L. var. <i>decipiens</i> Buchen.	イ			●				
	403	<i>Juncus tenuis</i> Willden.	クサイ			●	●			
ユリ科	404	<i>Allium splendens</i> Willden.	ミヤマラッキョウ				●			
	405	<i>Allium victorialis</i> L. subsp. <i>platyphyllum</i> Hulten	ギョウジャニンニク			●	●			
	406	<i>Cardiocrinum cordatum</i> (Thunb.) Makino var. <i>glehnii</i> (Fr.Schm.) Hara	オオウバユリ			●				
	407	<i>Convallaria keiskei</i> Miq.	スズラン				●			
	408	<i>Disporum sessile</i> Don	ホウチャクソウ			●	●			
	409	<i>Disporum smilacinum</i> A.Gray	チゴユリ				●			
	410	<i>Lilium medeoloides</i> A.Gray	クルマユリ			●	●			
	411	<i>Maianthemum dilatatum</i> (Wood) Nels. et Macbr.	マイヅルソウ			●	●			
	412	<i>Polygonatum odoratum</i> (Mill.) Druce var. <i>maximowiczii</i> (Fr.Schm.) Koidz.	オオアマドコロ			●	●			
	413	<i>Smilacina japonica</i> A.Gray	ユキザサ			●	●			
	414	<i>Trillium tschonoskii</i> Maxim.	ミヤマエンレイソウ			●				
	415	<i>Veratrum album</i> L. subsp. <i>oxysepalum</i> Hulten	バイケイソウ			●				
	416	<i>Veratrum maackii</i> Regel var. <i>japonicum</i> (Baker) T.Shimizu	シュロソウ				●			
	ラン科	417	<i>Gymnadenia cucullata</i> (L.) Richard	ミヤマモジズリ			●			
418		<i>Oreorchis patens</i> (Lindl.) Lindl.	コケイラン			●				
419		<i>Platanthera metabifolia</i> F.Maek.	エゾチドリ				●			
420		<i>Platanthera sachalinensis</i> Fr.Schm.	オオヤマサギソウ			●				
421		<i>Spiranthes sinensis</i> (Pers.) Ames var. <i>amoena</i> (M.Bieberson) Hara	ネジバナ			●				

注. 「帰化」のNは帰化種, Eは逸出種(または栽培種)であることを示す

注. 「RDB」欄は道RDB, 環境庁RDBおよび環境庁(1976)の自然環境基礎調査選定種に該当するかどうかをチェックした

「道 Ex」は北海道レッドデータブックの絶滅種

「道 Cr」は北海道レッドデータブックの絶滅危険種

「道 Vu」は北海道レッドデータブックの絶滅危急種

「道 R」は北海道レッドデータブックの希少種

「環 CR」は環境庁レッドデータブックの絶滅危惧ⅠA類

「環 EN」は環境庁レッドデータブックの絶滅危惧ⅠB類

「環 VU」は環境庁レッドデータブックの絶滅危惧Ⅱ類

「環 NT」は環境庁レッドデータブックの準絶滅危惧類

「緑」は自然環境基礎調査の選定種

注. 「小川横山」および「大川横山」の●は、横山(1951)で確認されている種

注. 「横山備考」欄は、確認地名または和名(異名)